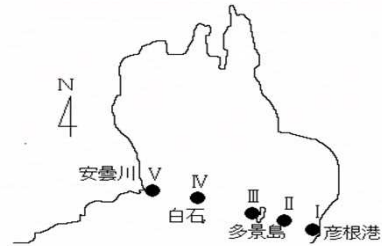


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和元年9月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和元年9月17日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 …… 5地点の平均値

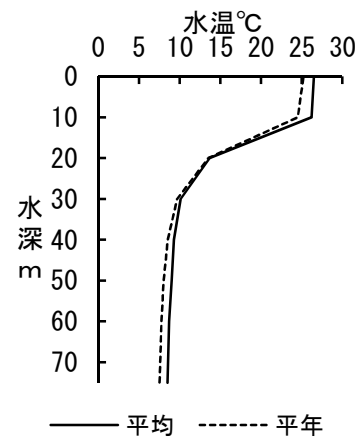
平年値 …… 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1981年～2010年(昭和56年～平成22年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2009年～2018年(平成21年～平成30年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 9月平均値 5.1m 平年値 5.6m

2. 湖水温 (°C)

水深(m)	9月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	26.5	25.2	+1.3
10	26.2	24.5	+1.7
20	13.7	13.5	+0.2
30	10.1	9.7	+0.4
40	9.3	8.5	+0.8
50	9.0	8.0	+1.0
60	8.7	7.8	+0.9
75	8.5	7.5	+1.0



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
8月下旬	27.9	27.1	+0.8
9月上旬	27.7	26.4	+1.3
9月中旬	26.9	25.0	+1.9

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	9月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	12.0	12.6	-0.6
10~20	2.1	3.0	-0.9
20~40	0.6	1.0	-0.4
40~75	0.1	0.4	-0.3

(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては細胞数で見ると全ての地点で *Aulacoseira granulata* (アウラコセイラグラヌラータ:珪藻) が最も多くを占めていた。

動物プランクトンについては、全ての地点で *Eodiaptomus japonicus* (ヤマトヒゲナガケンミジンコ カイアシ類) とと思われる種類のノープリウス期幼生が最も多く、成体までの生育段階を含めて多く認められた。



Aulacoseira granulata



カイアシ類のコペポディド期幼生 (右) とノープリウス期

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/l)

水深 (m)	9月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	7.82	(98.6)	8.30	(102.9)	-0.48	(-4.3)
10	7.82	(98.7)	8.07	(97.8)	-0.25	(+0.9)
20	6.49	(64.0)	7.23	(72.3)	-0.74	(-8.3)
30	7.86	(72.0)	8.29	(75.8)	-0.43	(-3.8)
75	3.36	(29.7)	5.14	(44.3)	-1.78	(-14.6)